

2020

ノウフク
アワードNOUFUKU AWARD
2020審査員特別賞
「人を耕す」の部

Special Jury Prize

社会福祉法人 南高愛隣会 (長崎県雲仙市)

受賞理由 在来種「対馬地どり」を守る

1977年から農福連携に取り組み、知的障害者だけでなく、触法障害者も活躍する事業所です。企業や県と連携した在来種「対馬地どり」の飼育など、地域農業の維持・発展や地域活性化に貢献しています。



概要 和牛の飼育やアスパラガスのハウス栽培にも取り組む

地元JAと連携して繁殖牛30頭の飼育と60坪の畑で野菜栽培を展開しています。企業や県と連携した「対馬地どり」2,000羽の飼育にも取り組み、都市部の高級ホテルへ販売しています。その生産・消費の拡大を目的に、飼料提供元の長崎県養鶏農業協同組合らと「長崎対馬

地どり振興協議会」を立ち上げ、飼育技術の普及・向上に努めています。農繁期の人手不足解消のため農家へ農援隊を派遣。また工賃向上を目的に10年前からアスパラガスの本格的なハウス栽培を始めました。



成果 秋の収穫祭をきっかけに地域連携深める

＜農林水産業＞

- ・地域で「対馬地どり」と和牛の種の保存に貢献し、優良な受精卵の提供に取り組んでいます。
- ・農援隊の派遣は、2016年に年間30日ほどでしたが、18年には218日に増えました。

＜障害者等＞

- ・平均工賃が年々増加しています。地域の農家から感謝され、自己有用感とモチベーションが高まっています。

＜地域＞

- ・「対馬地どり」は長崎県庁レストランの特別メニューで採用され、好評を博しました。
- ・ニーズが高まり派遣農家数が増えています。2016年度は8件でしたが、20年度には27件になりました。
- ・毎年地域住民とともに秋の収穫祭を開催し、親睦を深めています。
- ・収穫祭を機に、地域での役務作業・防災活動や救急講習の開催へと発展しました。